



吉川 淑子 議員
(政 和 会)

学校給食、2年後実施せよ

復興の進行状況を見据え

問 町民から学校給食実施の要望が強い。震災から5年目を迎えた。凍結を解除し計画を進め、2年後の完成を目指し、是非実行すべきだ。

佐藤町長 要望が多いことは認識しているが、再開時期は復興の進行状況を見据えて対応したい。

問 町民グラウンド仮設の空室が多くなれば集約を進め、給食センター建設を優先する施策に転換すべきだ。

佐々木建築住宅課長 町民グラウンド仮設は大規模であり町有地である。撤去時期は担当課（教育委員会）と協議しながら決めていく。

問 集約が難しいなら現在

在整備している山田病院、消防署予定地と同じ所か別な場所も考えられるのでは。

甲斐谷副町長 別な場所と

問 大浦小学校には給食

は。なるランニングコストが掛かる。運搬費を安くするため当初計画の場所に決めた。



大浦小学校の給食の時間

があり栄養教諭も配置されている。とても良いことだ。しかし、教育という観点で格差の現実がある。当町では子供たちに公平な教育をしないのか。全ての学校に公平に学校給食を実施せよ。

佐々木教育長 大浦小と他の学校を比較する答弁は控える。

問 国の学校給食法では「義務教育学校の設置者は学校給食が実施されるよう努め、地方公共団体は給食の普及に努めなければならない」とある。義務付けられているのに当町は努力していないのではないか。

教育長 今まで給食を否

定したことはない。

問 町のトップは町長であり、町長の決断で決まる。

町長 努力した結果、3・11でこのようになった。

問 沿岸市町村では人口減対策として子育て支援に力を入れている。佐藤町長はその点、定住に取り組むと言っているが、若い人や子育て中の人は山田に給食がないので、逆に転出しなにか心配だ。当町だけが学校給食が無いのを憂い、早期実施を強く願う。

町長 復興の進行状況を見据え対応したい。

その他の質問

◆仮設住宅改修の早期完了を

◆派遣職員の減による支障は

◆荒川小児童への放課後児童クラブの対応を